

「研修会等名称」

APET 英語教員のための夏季セミナー

「指導の充実」セミナー4 「夢中になる！リーディングの指導法」

「指導の充実」セミナー5 「発信力がつく！英語表現・文法の指導法」

場所：株式会社ビズコム（東京、山王  
グランドビル3階）

期間：2018年8月9日、10日

1. 研修の内容

2018年度の英語教員のための夏季セミナーAPET(Academy for Professional English Trainers) で開催されている7つの講座のうちの2つを8月9日、10日に受講した。

1日目の「指導の充実」セミナー4では、リーディング指導の上で、受動的なリーディングを能動的に「読めるように」指導するための7つのコツを学んだ。それは、授業の中に①直読・直解、②音読筆写、③音読、④速音読、⑤スキミング、⑥スキヤニング、⑦内容を予想する活動を取り入れることである。

精読、訳読方式のリーディング指導では、そのトレーニング自体もどうしても受動的になりがちである。そのため、今回の研修は、日本語訳はあらかじめ配ってしまい、その日本語訳と対比させる形で音読を行い、その本文を音読筆写、速音読していくことで本文の意味を頭に定着させることを目指していた。本文の中から重要構文を選んでリスト化して自宅学習の課題にすると、学生自らが主体的にその構文を音読し意味を覚えるという活動も可能になる。

TOEICの長文や洋書を読む際にも、英文だけで指導するのではなく、まずは日本語訳を読んでから英文を読むトレーニングをするのも良いとの指導を受けた。特に英語アレルギーがある学生は、英語長文を見るだけで苦手意識が高まる。前もって日本語で内容を把握しておくことで、少し英語の単語が分からなくても「読もう」とする意識は高まるようだ。これが効果的かどうかは、やはりその学生の英語力や苦手意識の度合によるのではないかと思うが、今やスマートフォンで英文の写真を撮ったら自動的に翻訳することができる時代である。「語学学習」「内容把握」という点においては、いさぎよく日本語訳を渡してそれを授業内でペアワーク、音読活動に利用することも必要なのかもしれない。

2日目の「指導の充実」セミナー5の目的は、どうしても受動的になりがちな文法指導をいかに楽しく行うか、3つのモデル・レッスンを受けることで体感し、実践できるようになることであった。仮定法などの基本構文を利用し、日常で利用できる表現に落とし込み、1日目のリーディング指導法の際に学んだ直読・直解、音読、および映像（画像）や絵による内容把握を通して、その表現を定着させていくペアワークも行った。自己紹介などで必要になってくる、“I’m interested in \_\_\_\_\_” “My favorite \_\_\_\_\_ is \_\_\_\_\_”等の表現を、紙を見ずに楽しく覚えるトレーニングの仕方もグループ内で実践した。

また、最近の学生は「意見がない」から、基本構文を覚えた上で自己表現するディスカッション活動がなかなか活発にならないという悩みも教員にはある。その悩みを解消するには、学生が自分の中に落とし込みそうなモデル意見を複数用意すること、その上で自分の意見に合いそうなモデルを学生に選択してもらい、そのモデルを意見発信するためのひな型にはめ込ませる、ということをするれば、学生も拒否感なくグループないしペアで意見を発信することが可能であるという事例も提示していただいた。2日間続けて受講をしたことで、1日目で学んだ様々な素材活用法を、より現実味をもって体験することができた。

## 2. 研修の成果

今回の研修の成果は総じて、リーディング授業に学生がより主体的に参加ができるような音読活動および、授業外においても教員なしで学生が持続して学習に取り組めるような活動についての知識を深めることができたことにある。

私は普段の授業で、英語の長文を読む際に、必ず学生と一緒に音読をして、ペアで音読をしてもらうようにしている。しかし、私の今までの音読指導法は単に発音の確認と授業への学生の参加を目指していただけだった。今回の研修では、意味取りのために行う **Sight Translation** を用いたペアでの日英音読の練習方法や、その授業中の音読活動の中で、学生が自ら分からない箇所の下線を引き、日本語訳と対照させて意味を取る方法も学んだ。また、文単位での内容を理解するために「誰が」「どうする」「何を（どこで・いつ）」を一塊で理解するために、簡単な英文を音読しながら書く速音読という活動も学んだ。こうした活動を実践すれば、一文ずつ文法などの緻密な構造説明をしなくても学生が簡単に英文内容をくみ取ることができ、より自然に英語の基本構文も身に着けることができると感じた。

また、本文から切り取った基本構文を応用し、日常的に役立つと思えるような例文を紹介すること、実際にそういった日常的にあり得るシチュエーションを日英ミックス英会話（話しかける側は日本語、答えは英語）で演じてみるというアイデアも、英語に苦手意識を持つ学生が能動的に授業参加するハードルを下げることになると思った。

加えて、研修自体が主に、高校教員をターゲットにしたものだったので、高校教員が英語指導で抱える悩みと、実践している指導法についての情報共有が出来たのは収穫であった。例えば、Q&A セッションでは、本研修で指導されているようなアクティブ・ラーニングの方法を受験英語指導のレベルにまで取り入れることに関する懸念が共有された。そこで興味深かったのは「全てを授業で教えようとしなくてもいい」「重要なパラグラフだけ指導をし、残りは自宅での自主学習を促す。自主学習分は小テストで習熟度を確認する」という講師の回答であった。確かに、英文の素材一部を使って興味を引く授業をして充分な動機付けをすれば、学生は主体的に語学学習に取り組むようになるだろう。

## 3. 授業への研修成果の反映状況

今回の研修成果が秋学期からの授業に反映できる点は4つある。1つめは、TOEIC の長文指導の際に、スキミングとスキヤニングを利用することである。リーディング問題を攻略する上でのストラテジーの話になるが、私のクラスは日本語母語話者の学生ばかりのクラスなので、まずは和文を利用してスキミングとスキヤニングの方法を指導し、TOEIC の長文に出てくる英文のテーマの傾向の話とともに、なるべく多くの英文問題を使用してスキミング、スキヤニングのトレーニングを行いたい。2つめは、TOEIC で出てくる頻出基本構文を整理し、ペアで反復音読練習を行い、その表現を記憶に定着させることである。その際に、学生の自律学習の一助として音読筆写のトレーニングを紹介したい。

3つめは、英文本文を読む前に、教員が導入の問いかけをし、その問いかけに応じて学生がペアで話し合う「次に読む英文内容を予想する活動」を取り入れることである。英文を読む授業の1つ前の授業の終わりに、次に来る英文のテーマに関する質問をし、一度ペアで話し合うことで、次の授業の英文を読む動機付けになればと考える。4つめは、本文を読解した後のディスカッション活動に、学生が思いつくであろうモデル意見を日英のリストで提示し、意見⇒理由⇒具体的な例⇒まとめ、といった英語での意見発信の際の型にはめてそれぞれ発信してもらう活動を行うことである。これは TOEFL や TOEIC のスピーキングテストを受ける際に必要なスキルであるため、リーディングの授業の際に積極的に取り入れていきたい。

学部長	学習・教育支援 センター委員長	学習・教育支援 センター委員会	名古屋教務課長	係